

令和3年度入学 私費外国人留学生選抜 試験問題の出典

社会福祉学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	—	外山 滋比古	知ること、考えること	『何のために「学ぶ」のか』 桐光学園＋ちくま プリマー新書編集 部 編 筑摩書房, 2015年より pp.14-17	筑摩書房

社会福祉学部

小 論 文 (90分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、2ページあります。なお、下書き用紙が1枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず**黒鉛筆**（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 100 点)

これからの時代、これまでとは少し違った勉強をする必要がある。

これまで考えられてきた勉強というものは、大体において「知識」、ないし情報を取り込むことであった。小学校からひたすらに知識を頭に入れ、試験の時にはその知識を使って答案を書いて、点をとるのである。この知識というものは、大変有用であると考えられている。したがって知識をたくさん持つことは、その人間の価値を高められるのである。しかし、満点の答案を書こうとしている人たちが持っているような知識がたくさんあっても、それは本当の人間の力ではない。

問題は、それが本当に人間として大事な能力であるのかどうかだ。ただ知識ばかり集めて喜んでいると、だんだん馬鹿になる。もっとも、学校でこんなことを考えたら授業を行うことができなくなってしまう。それで、そういうことは言わないことになっている。

小学校からだんだん知識が増えていき、それと引き換えにどんどん頭がはたらかなくなってしまう。ここで言う「頭が悪い」というのは、「新しいことが考えられない」「判断をする力がない」ということ。

知識が増えると、どうしてもその知識をそのまま使用して物事を処理しようとしがちになる。自分自身で考えることが、つついとおっくうになりがちだ。本に書いてあることをそのまま頭の中に入れ、それによっていれば自分で考える必要はなくなる。

知識をありがたがるのは歴史的なもので、どうにもならないことでもある。ヨーロッパでは 16 世紀の終わり頃には、知識というものは社会的価値を持っているという考え方が確立した。以来、教育機関はとにかく知識を身につけることを教えた。それが大体今も続いている。

詰め込んでいけば、頭の中はいずれ知識でいっぱいになるが、それは良いこと、素晴らしいことだとみなされる。だが本当にそうだろうか？ 自分の頭の中が、他人が考えた知識、本に書いてある知識で満杯になることが、そんなにいいことだろうか？ トンデモないことでむしろ逆だ。そんな知識だけの頭では身動きが取れなくなってしまう。いわば、知識メタボリック症候群。知識のぜい肉で太ってしまうと、軽やかで柔軟な思考など到底望めなくなる。

知識メタボリック症候群の人は、100 点満点の答案を書けるかもしれないけれど、この先 30 年もすれば、結局はつまらん人間にしかなりえないということがわかってくるだろう。心ある人は自分の責任で、自分の力でものを考えて行動できる人間でなければいけないと気づくことになる。例外はもちろんあるけれど、だいたいにおいて知識が増えると、ものを考える力が減っていく。知識と思考の間では反比例の関係が成り立つのである。

(外山滋比古「知ること、考えること」桐光学園+ちくまプリマー新書編集部 編『何のために「学ぶ」のか』、筑摩書房、2015 年、pp.14-17 より、一部改変)

問1 筆者がこの文章で伝えたいことは何か。150字以上200字以内で説明しなさい。

問2 思考を重視する教育としてどのようなものがあるか。教育の具体的な例を挙げて、そのメリットとデメリットについて400字以上600字以内で説明しなさい。